

走れ! 走れ走れメロス

アーツカウンシル金沢 青少年芸術活動支援パイロット事業

🎬 演劇に出会う映画上映会

駆け出した青春は止まらない
「演劇」に出会った高校生たちの物語

胸が高鳴る、熱くなる。



メロスたち

日時

2025.3.29(土)

会場

金沢21世紀美術館 シアター21 (金沢市広坂1丁目2-1)

- 上映：①13:00～15:00 [走れ！走れ走れメロス]+アフタートーク
②15:30～17:30 [走れ！走れ走れメロス]+アフタートーク
③18:00～19:20 続編[メロスたち]
※客席開場は各回15分前

料金：①,②,③ 各回 1,000円 / 22歳以下の方は無料 (事前予約、先着順)

- ※22歳以下の方は席数限定50席、当日身分証明書をご提示ください
※①または②の回に参加した方は、③の回を無料で鑑賞できます(要予約)

主催：アーツカウンシル金沢 (公益財団法人 金沢芸術創造財団)
協力：有限会社シネモンド
後援：北國新聞社

チケット予約フォーム



アーツ
カウンシル
金沢



走れ! 走れ走れメロス (53分/ステレオ/ビスタ/カラー/日本/2023年)

出演: 曾田昇吾、常松博樹、石飛圭祐、佐藤隆聖、亀尾佳宏

監督: 折口慎一郎

「対人関係が少し苦手」「ずっと机に向かうのも得意じゃない」「熱中できるものなんてない」など、それぞれの劣等感と向き合いながら、演劇に魅せられていく4人。意気揚々と高校演劇の地区大会に挑戦する高校生たちだったが、本校である三刀屋高校のレベルに圧倒された上、コロナ禍により無観客での開催になってしまう…

演劇に、出会ってしまった。

「不要不急」「ステイホーム」という言葉が飛び交い、あらゆる活動が止まってしまったあの頃。島根県の小さな分校を舞台に、男子高校生4人と顧問を追った高校演劇のドキュメンタリー映画が生まれた。題材にしたのは太宰治の小説「走れメロス」。演劇との出会いをきっかけに動き始めた彼らの青春は、時代のうねりの中で予想外の方向に走り始めて……。第14回下北沢映画祭で審査員特別賞をはじめ四冠を受賞するなど、全国各地の映画祭で話題になった作品を北陸で初上映。現役の学生、かつて学生だった大人たちに届ける“心が熱くなる瞬間”をぜひ劇場で!

メロスたち (76分/ステレオ/ビスタ/カラー/日本/2023年)

出演: 曾田昇吾、常松博樹、石飛圭祐、佐藤隆聖、亀尾佳宏

監督: 折口慎一郎

『走れ! 走れ走れメロス』から1年。続編新作にあたる『メロスたち』では、高校卒業を目前に控え、孤独や葛藤、焦燥を抱える彼らそれぞれの「選択」を軸に物語が動いていく。それぞれ進路を決める中、曾田昇吾は1人で中国大会の舞台に立っていた。「オレだけ演劇やっていいんですね」。卒業が近づいていた。



アフタートーク 「未来につなげる・ひろがる演劇」

上演終了後は、監督・出演者によるアフタートークを開催します。

映画制作の裏話のあれこれや、地域で抱える課題、青少年期に芸術文化に触れる経験など、ざっくばらんに話してみます。



監督

折口慎一郎

1988年、広島県生まれ。大学時代に自主映画制作サークルで映画づくりを始め、卒業後、中国新聞社に記者職で入社。

18年に退社した後、大学在学中に取り組んでいた映画制作を再開させる。「走れ! 走れ走れメロス」が本格的なデビュー作となり、第14回下北沢映画祭審査員特別賞等を獲得。第42回「地方の時代」映像祭市民・学生・自治体部門優秀賞など受賞。



顧問

亀尾佳宏

島根県の高校教員。演出家、劇作家。高校演劇、雲南市創作市民演劇、劇団一級河川という3つのフィールドで表現活動

に取り組んでいる。高校演劇のコンクールでは全国大会出場10回。雲南市創作市民演劇では毎年公募で集まった仲間と作品をつくり続け、人口4万人弱の町でのべ1万人以上の観客を動員している。



生徒

曾田昇吾

2004年6月、島根県雲南市生まれ。高校2年生から演劇を始め、22年3月の「若手演出家コンクール2021」最優秀賞受賞作品に出演。

同年12月の中国地区高校演劇発表会では一人芝居ながら優秀賞(第3位)を受賞した。23年3月の卒業後は上京し、文学座附属演劇研究所研修生として1年間修練を積み、24年4月からフリー俳優として都内を中心に活動。

私たちは金沢芸術創造財団の芸術活動を応援しています。

大村印刷株式会社、金沢市分譲住宅建設協力会(一般社団法人石川県木造住宅協会)、田中昭文堂印刷株式会社、株式会社橋本清文堂、ホクモウ株式会社、株式会社ボルテ金沢、株式会社ユニークポジション、ヨシダ宣伝株式会社(五十音順)